

2025年4月14日

各位

テイカ株式会社

高屈折率チタニアゾルの新用途での採用が決定、
2026年度に売上高3倍、2029年度に売上高10倍を目指す

当社が長年かかって開発を続けてきた高屈折率チタニアゾルが、最新の車載用ディスプレイの光学部材で採用されることが決定いたしました。

今後、ますますの発展が見込まれる映像関連での採用を拡大し、チタニアゾルの売上高を2026年度末には2024年度実績の3倍、2029年度末には10倍を目指します。

記

1. 車載用ディスプレイでの採用決定、さらなる映像関連での採用拡大へ

当社が長年開発を続けてきた高屈折率用途の材料であるチタニアゾルが、最新の車載用ディスプレイの光学部材として採用されることが決まりました。今回採用に至った背景には、映像関連用途の多様化と要求品質の高度化に対して、当社が積み重ねてきた高透明性、高耐久性、易配合性などの改善改良により、顧客の要求を超える製品を提供することができた成果があります。当社チタニアゾルを車載用ディスプレイに使用すると、屈折率の調整が容易に行え、輝度コントラストが格段に向上することで視認性を向上させることができます。その結果、日中・夜間を問わず様々な条件下で鮮明に情報を確認することが可能となるため、運転快適性の向上につながると期待されています。

本件の車載用ディスプレイ用途での実用実績を確立することにより、今後ますます発展が見込まれるAR（拡張現実）やVR（仮想現実）用デバイスといった、映像関連のイノベーションに当社が参画できるものと期待しています。

2. 採用が決定したチタニアゾルの特徴

今回のチタニアゾルは、より屈折率の高いルチル型結晶を用いて、当社独自の分散安定化処理を行うことによって高濃度で配合することができ、優れた透明性と高い屈折率の両立が可能となりました。水や有機溶剤を溶媒とする従来のチタニアゾルとは異なり、モノマーを溶媒に用いることで、光取出し効率の高い硬化物、成形物の作成が可能になります。

当社は、今後のチタニアゾルの売上高目標として、中期経営計画「MOVING-10 STAGE2」の最終年度の2026年度末には2024年度実績の3倍に、長期経営ビジョン「MOVING-10」の最終年度である2029年度末には10倍を目指します。

また、状況に応じて設備増強投資も行い、当社の次なる事業の柱へと育成してまいります。

以上